

# えちぜん鉄道の利用者分析

平成23年6月17日 えちぜん鉄道活性化連携協議会 第3回協議会

— えちぜん鉄道活性化連携協議会事務局 —  
( 福井市 えちぜん鉄道 )

## 目次

1. 旅客運輸実績と開業前の利用予測の比較	…… 1
2. 利用状況の分析	…… 2
2-1. 路線別の状況	…… 2
2-1-1. 勝山永平寺線	…… 2
2-1-2. 三国芦原線	…… 3
2-2. 利用目的(券種)別の状況	…… 5
2-2-1. 通学定期	…… 5
2-2-2. 通勤定期	…… 6
2-2-3. 回数券	…… 7
2-2-4. 普通乗車券等	…… 8
2-3. エリア別の状況	…… 9
2-4. 沿線の人口の状況	……10

# えちぜん鉄道の利用者分析と今後の見通しに関する考え方

## 1. 旅客運輸実績と開業前の利用予測の比較

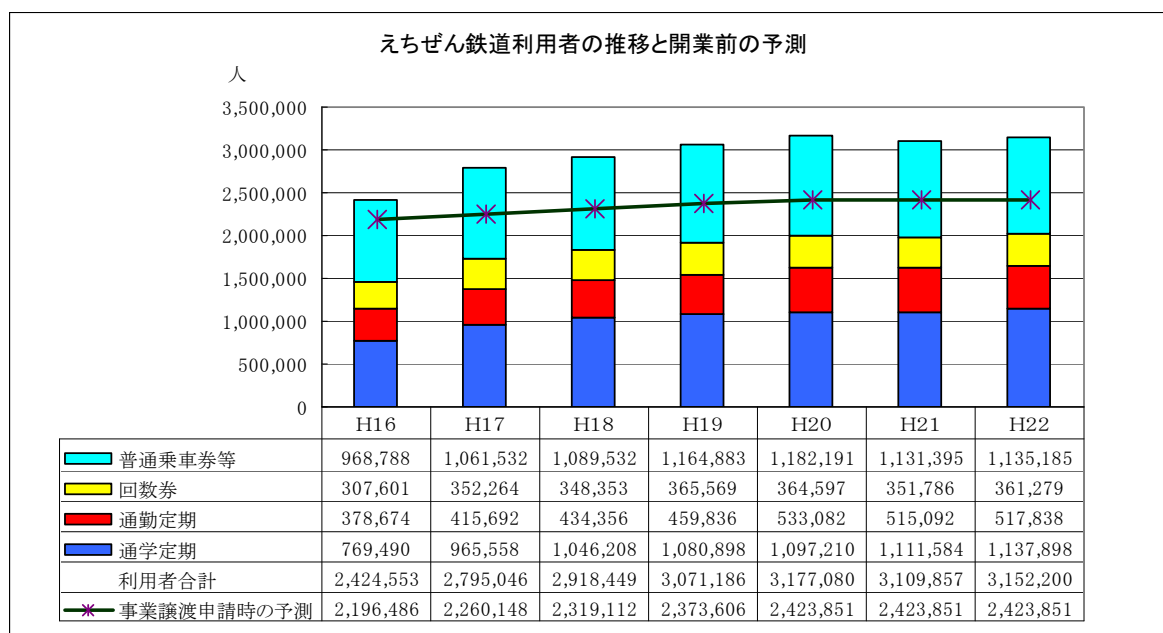


図1:えちぜん鉄道データ

- ▶ 平成15年10月の全線開業以降、順調に利用者は増加してきた。
- ▶ 平成21年度は世界的不況の影響を受け初の前年割れとなったが、22年度には再び増に転じた。
- ▶ 平成22年度には、累計で2千万人を突破した。
- ▶ 鉄道事業の譲渡申請時に作成した利用予測を大きく上回り、地域の基幹交通機関となっている。

## 2. 利用状況の分析

### 2-1. 路線別の状況

#### 2-1-1. 勝山永平寺線

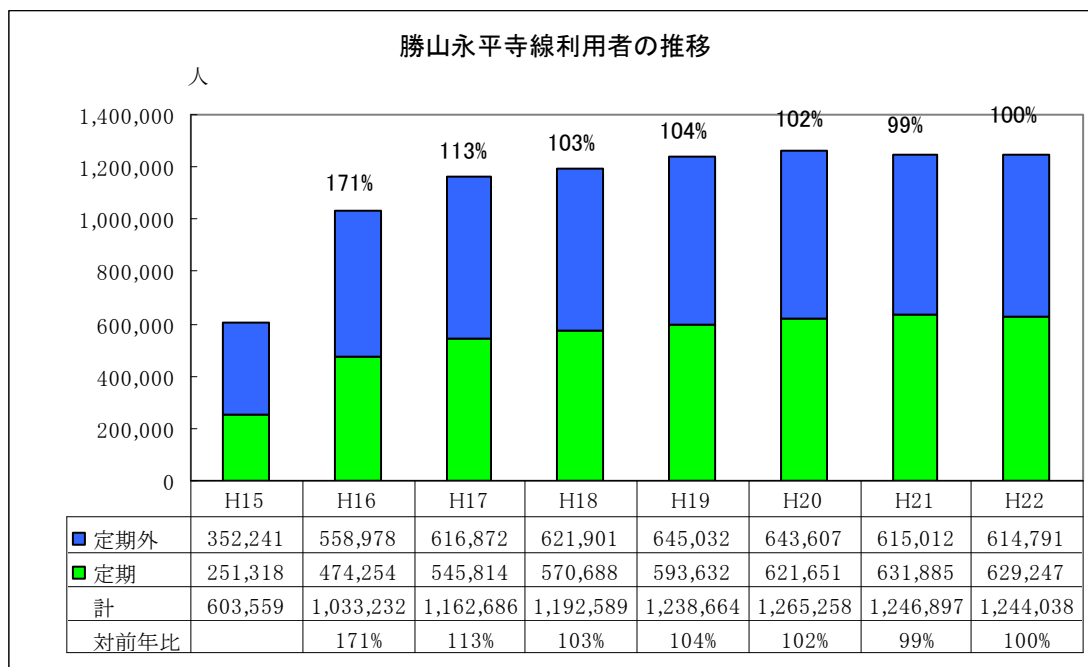


図2: えちぜん鉄道データ

- ▶ 沿線人口当たりの利用回数 1,240 千人 / 313 千人 = **3.96 回/人年**  
※沿線人口 312,943 人(勝山市 25,471 人 永平寺町 20,641 人 福井市 266,831 人 H22)

- ▶ 定期利用者: 定期外利用者 = 50.8% : 49.2%

- ▶ 沿線市町の高齢化率と少子化率

	高齢化率	少子化率	
勝山市	30.4%	12.0%	
永平寺町	24.8%	13.5%	
福井市	23.9%	14.0%	H22. 7.1推計

- ▶ 沿線観光地の入り込み状況

恐竜博物館	53万2千人	対前年比	120.4%
大本山永平寺	58万人		94.2%

- ▶ 学校等沿線の主な利用目的地

恐竜博物館 大本山永平寺 福井農林高校 ハローワーク

- ▶ 利用目的の特異事項

勝山左義長まつり 永平寺燈籠流し

## 2-1-2. 三国芦原線

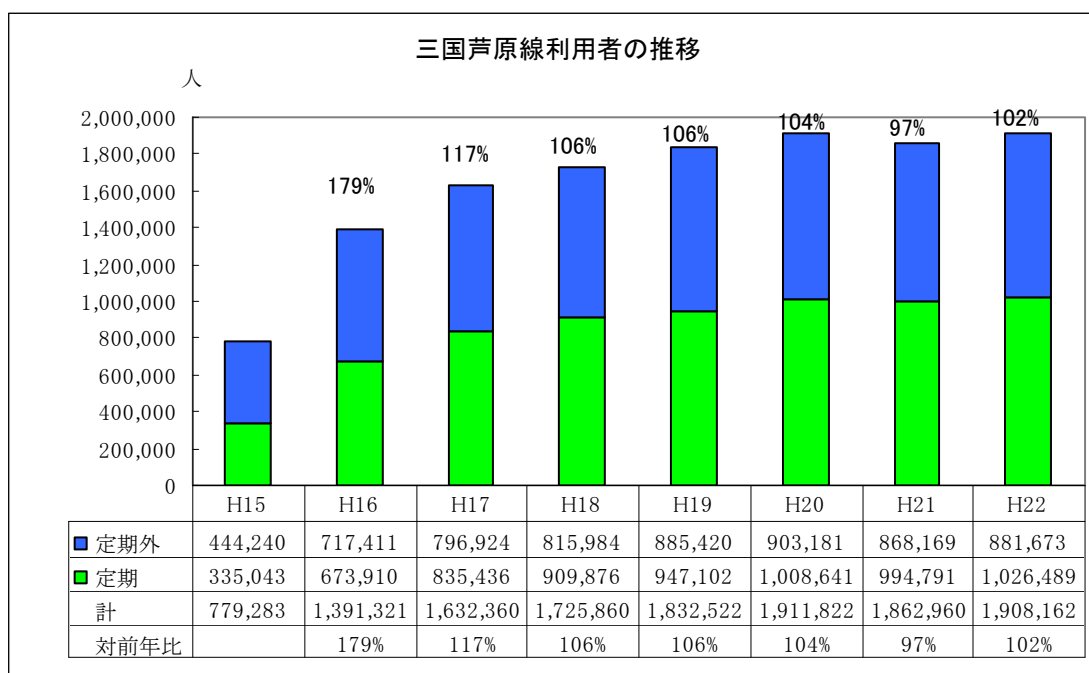


図3:えちぜん鉄道データ

- ▶ 沿線人口当たりの利用回数 1,910 千人／389 千人＝4.91 回/人年  
 ※沿線人口 388,752 人(坂井市 91,926 人 あわら市 29,995 人 福井市 266,831 人 H22)
- ⇒**路線ごとの沿線人口当たり利用回数の違いは、学校など目的地となる施設等の立地状況と、それに伴う昼間人口の差異によると考えられる。**
- ▶ 定期利用者:定期外利用者＝54%:46%
- ▶ 沿線市町の高齢化率と少子化率
 

	高齢化率	少子化率
坂井市	22.5%	15.5%
あわら市	26.5%	12.5%
- ▶ 沿線観光地の入り込み状況
 

東尋坊	127万人	対前年比	94.1%
あわら温泉	82.3万人		97.3%
- ▶ 学校等沿線の主な利用目的地  
 三国港 芦原温泉 東尋坊 福井大学 啓新高校 藤島高校 北陸高校 エブリ  
 福井総合病院 日華化学等の事業所
- ▶ 利用目的特異事項  
 三国花火 三国まつり
- ▶ 平日休日の別による利用の差異  
 あわら湯のまち、三国、三国港の普通乗車券等による利用が平日の3倍程度  
 福大前西福井の利用は、休日は平日の1/5程度に減少  
 新田塚から西長田あたりまでの中距離利用では大きな変化は認められない  
 平日雨天時には回数券の利用が増加  
 雨天時には福井一新福井間の利用も発生

三国芦原線 乗降調査の結果から

平成22年9月16日(木)雨 9月17日(金)晴 9月18日(土)晴 の3日間実施

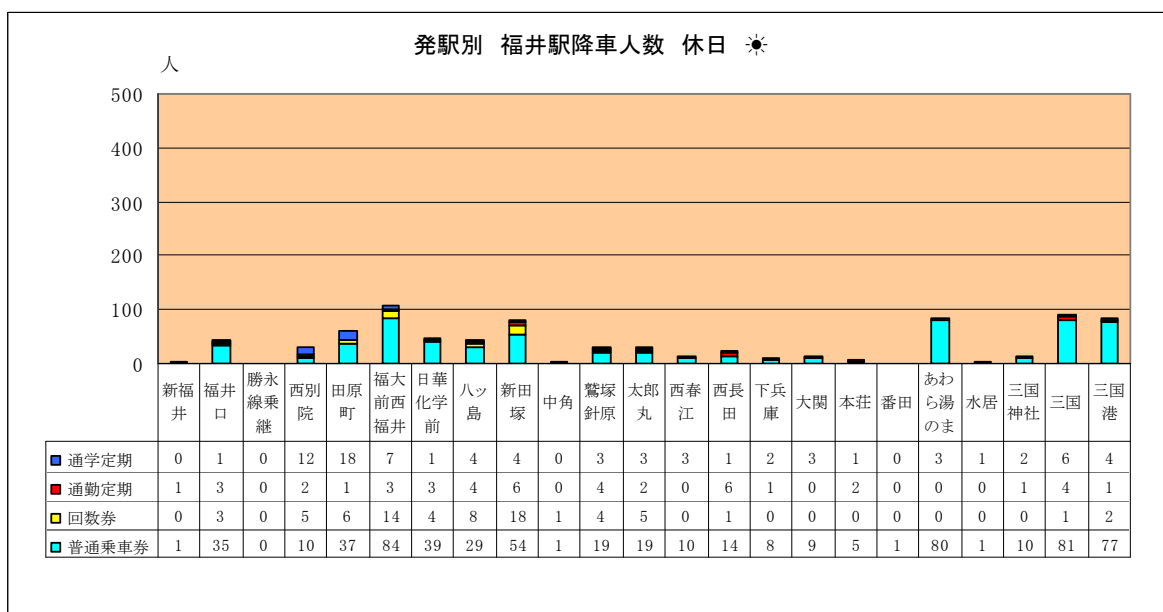
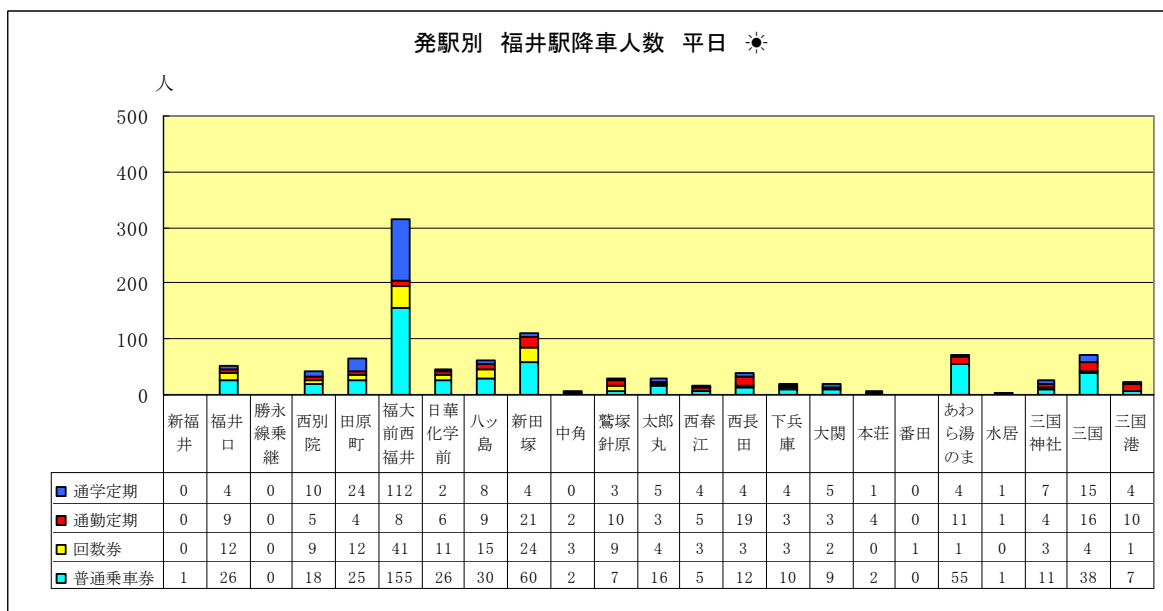
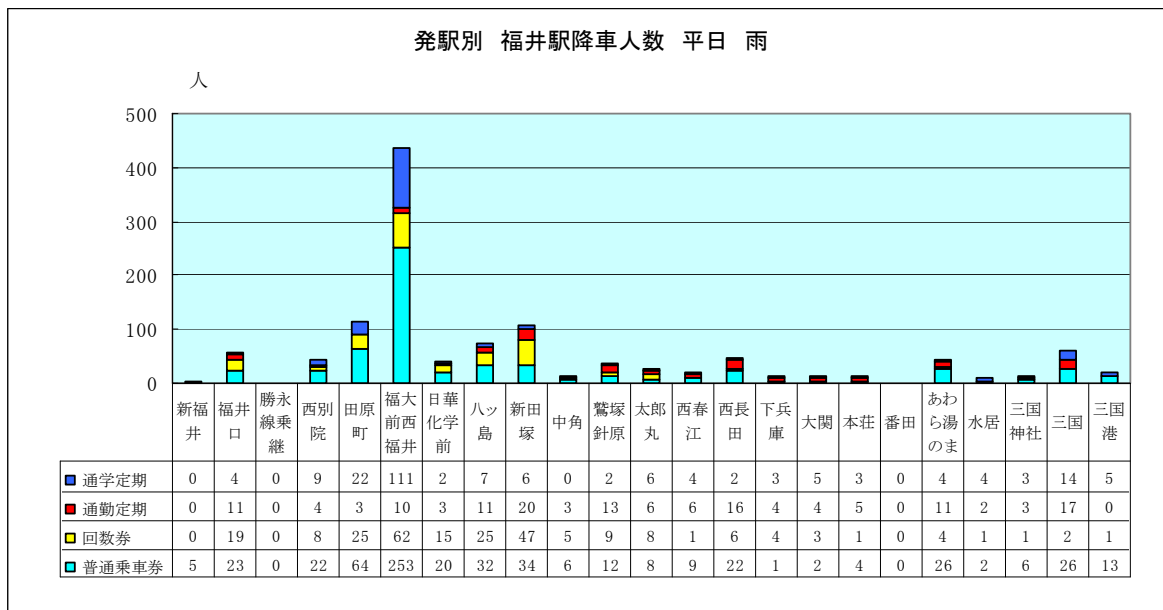


図4・5・6:えちぜん鉄道データ(H220D 調査)

## 2-2. 利用目的(券種)別の状況

券種別利用の推移 (平成16年度との比較)

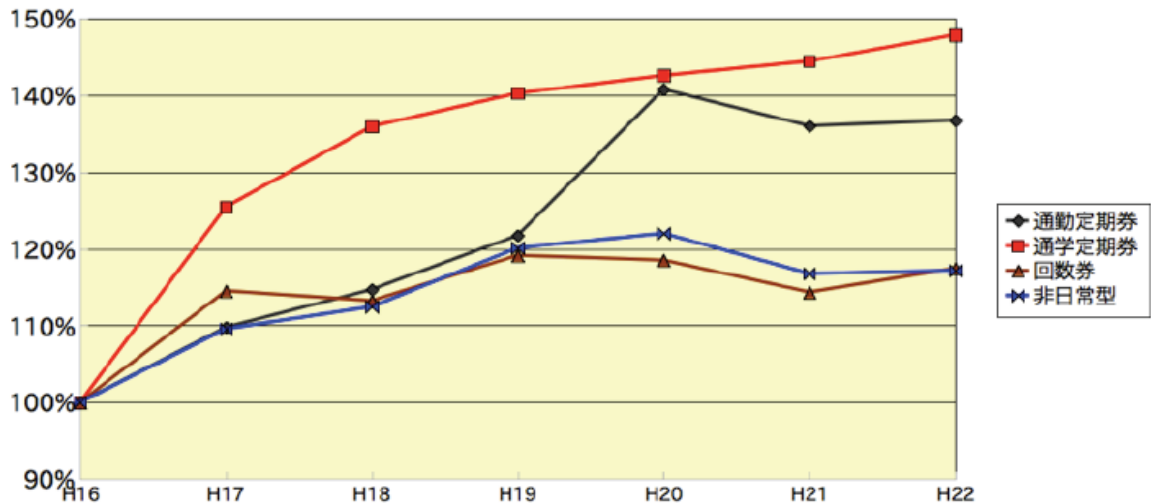


図7: えちぜん鉄道データ

### 2-2-1. 通学定期

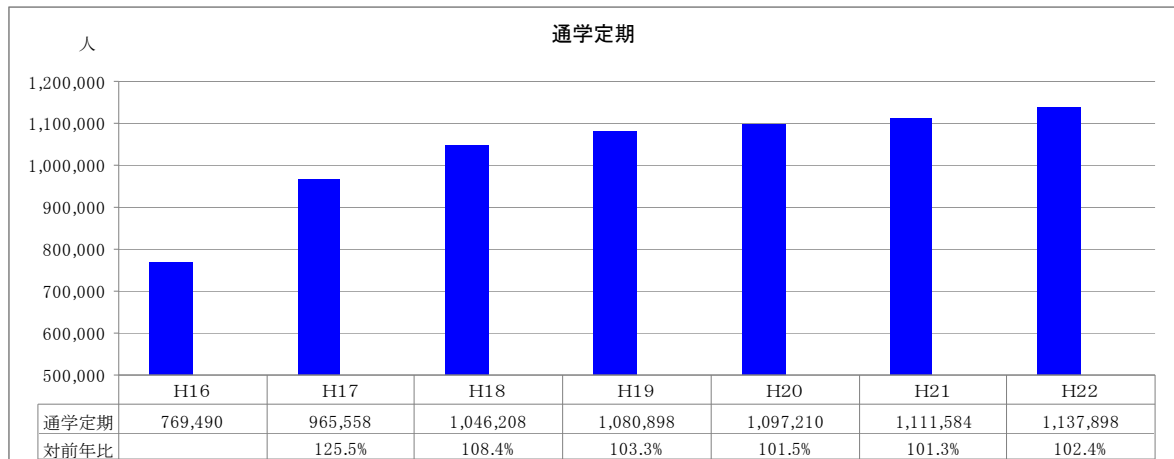


図8: えちぜん鉄道データ

- ▶ これまでは少子化の影響を受けず順調に推移してきた。
- ▶ 5年後ぐらいからは少子化の動きは今よりも顕著になり、その影響が懸念される。

《参 考》 沿線市町の高校生人口

- ✓ 平成33年度には22年度の87.75%にまで減少
- ✓ これを基にした平成33年度の利用者数予測 998,505 人(▲139,393 人)

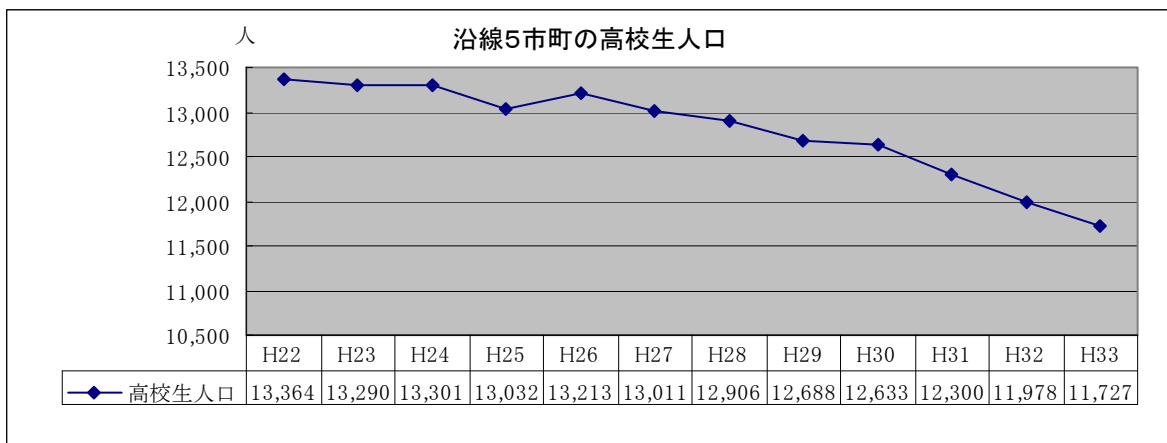


図9: 人口問題研究所データに基づく試算

## 2-2-2. 通勤定期

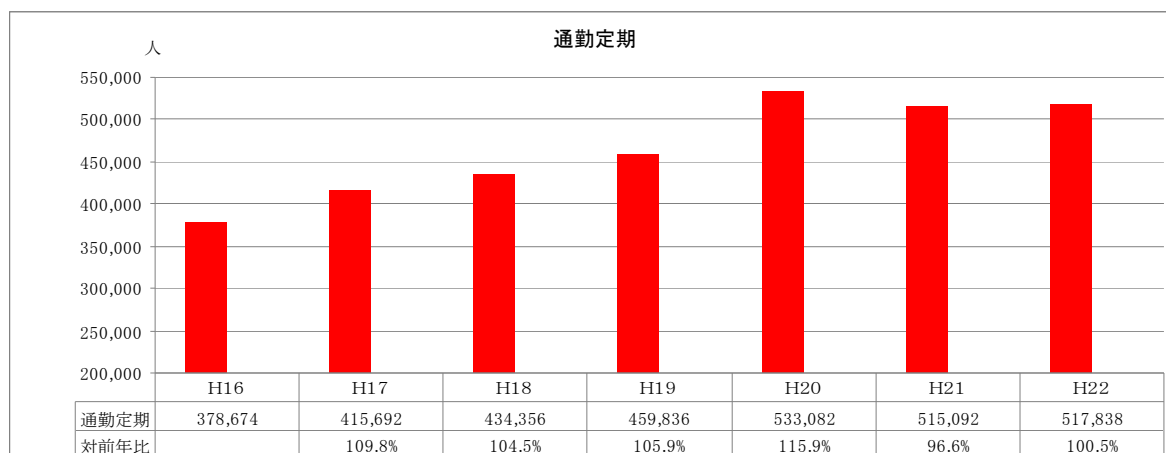


図10:えちぜん鉄道データ

- ▶ 平成20年度には、原油の高騰に合わせてマイカーからの転換で大きく増加。
- ▶ H21以降、景気悪化に伴うリストラ等での減少はあるものの、全体としてはガソリン価格が下落しても、通勤利用者は大きく減少していない。
- ▶ 鉄道利用の利点を知ってもらうことで、通勤手段の転換が進んでいると考えられる。

《参 考》 ガソリン価格の変動と通勤定期利用者数

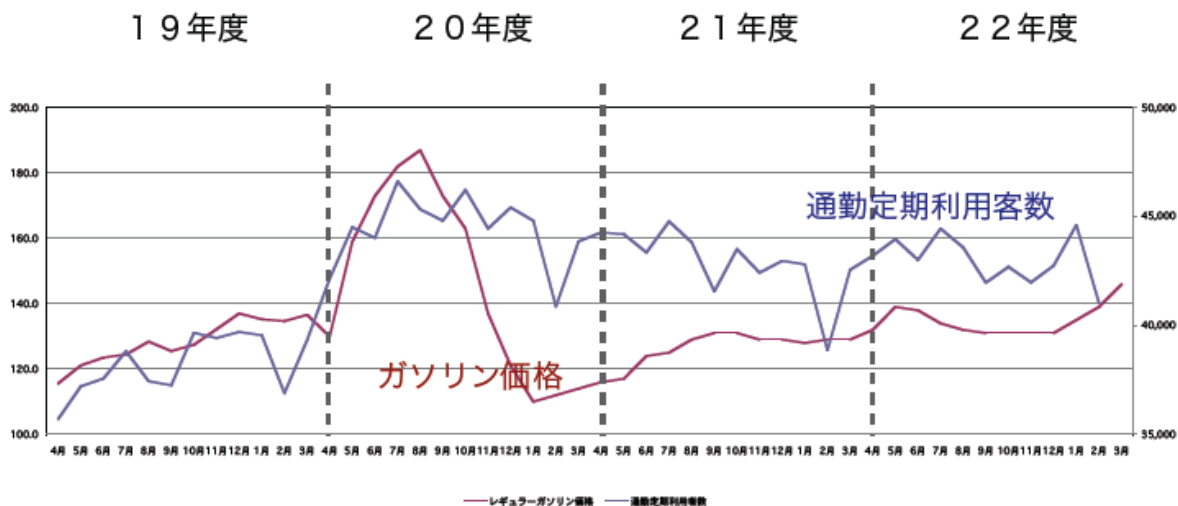


図11:えちぜん鉄道データ



### 2-2-3. 回数券

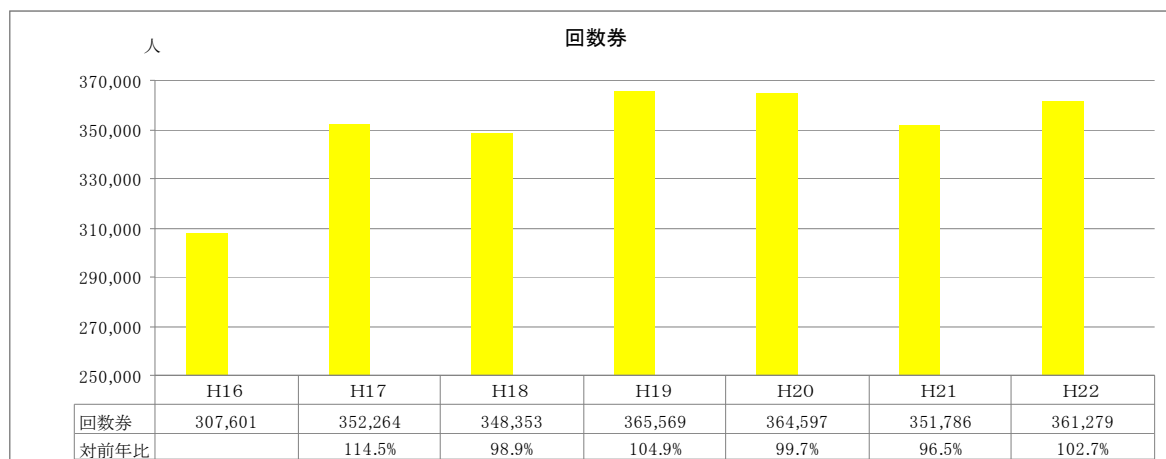


図12:えちぜん鉄道データ

- ▶ 回数券は、主に通勤・通学での自転車との併用(晴天時は自転車、雨天時は電車)による利用のほか、学期末や夏休み期間中に学生が定期券から切り替え、冬季には自転車通勤者の切り替えによる利用が増加する
- ▶ 通勤日数や距離によっては定期利用よりも安い場合があり、一定の需要がある。

#### 《参 考》 回数券と通勤定期券の比較

月 22 日利用(週休 2 日)の場合

＜例 1＞福井～勝山	6ヵ月定期	124,740 円	472.5 円/回
	1ヵ月定期	23,100 円	525.0 円/回
	回数券(11 枚)	7,500 円	681.8 円/回
＜例 2＞福井～越前新保	6ヵ月定期	38,560 円	146.1 円/回
	1ヵ月定期	7,140 円	162.3 円/回
	回数券(11 枚)	1,800 円	163.6 円/回

## 2-2-4. 普通乗車券等

普通乗車券のほか、1日フリーきっぷ、サポーターズクラブ会員割引による利用を含む

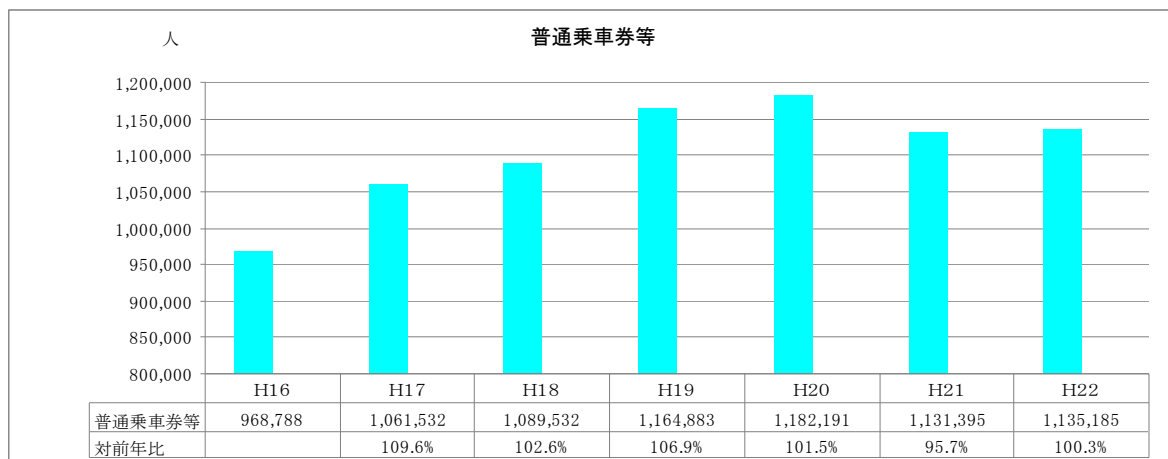


図13:えちぜん鉄道データ

- ▶ 景気悪化によるリストラ等の影響で、観光旅行が減少した。
- ▶ 平成22年度は、夏の酷暑・冬の大雪・3月の震災などの影響で、観光・ビジネス等の減少および高齢者が出控え傾向となり伸び悩んだ。
- ▶ 1日フリーきっぷは8,000枚の販売減となり、利用減少の大きな要因となった。
- ▶ サポーターズクラブはゴールド会員制度の新設以降大幅に会員数、利用数とも増加し、運賃2割引というお得感で、高齢者の外出機会増加に寄与している。

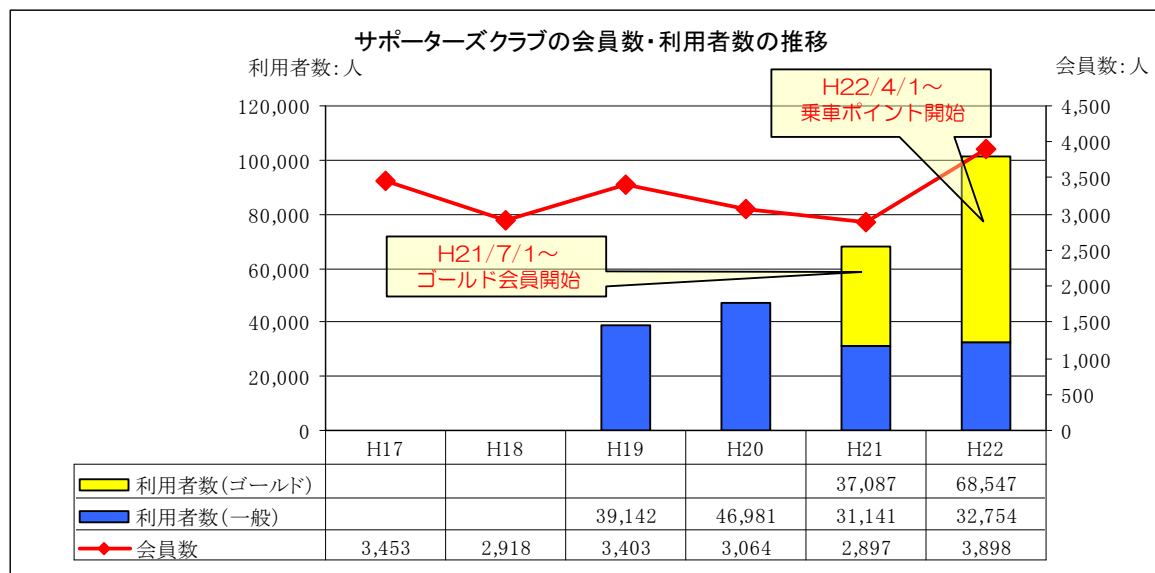


図14:えちぜん鉄道データ

## 2-3. エリア別の状況

エリア(距離)別利用者の推移

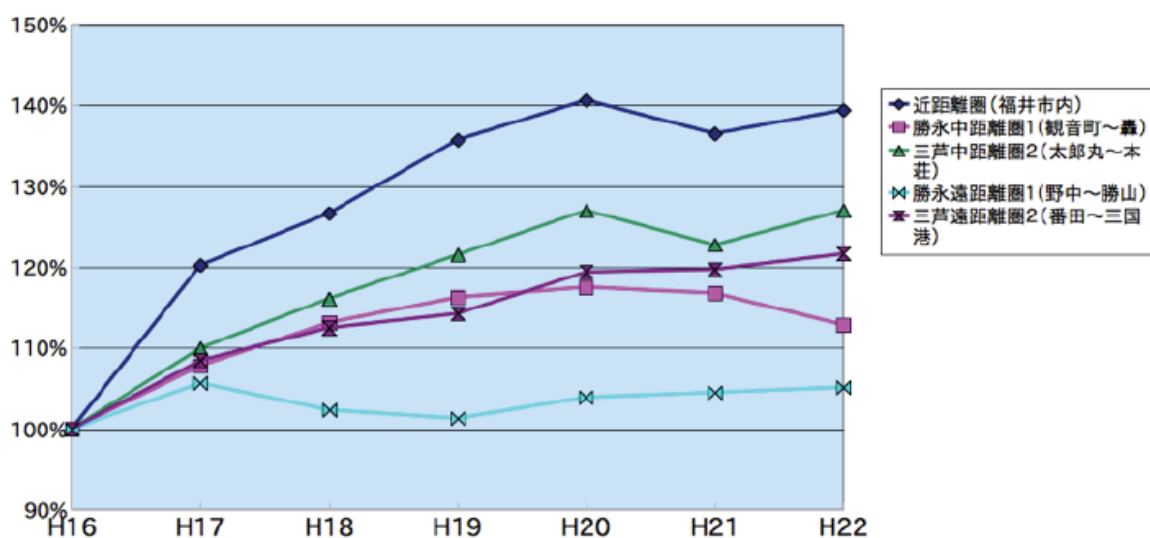


図15: えちぜん鉄道データ

- ▶ 近距離(福井市内)の利用が大きく増加している。

⇒都市内交通機関として機能し始めていると考えられる。

- ▶ 三国芦原線は中距離・遠距離ともほぼ同様の増加傾向となっている。
- ▶ 勝山永平寺線では遠距離の利用はほぼ横ばいであり、人口の減少傾向からも増加は望めない状況である。
- ▶ 勝山永平寺線の中距離利用は22年度に大きく減少となっている。永平寺参拝利用の低迷や、比較的高齢者の利用が大きいと考えられるエリアであることから猛暑によるか移出回避の影響と考えられる。

## 2-4. 沿線の人口の状況

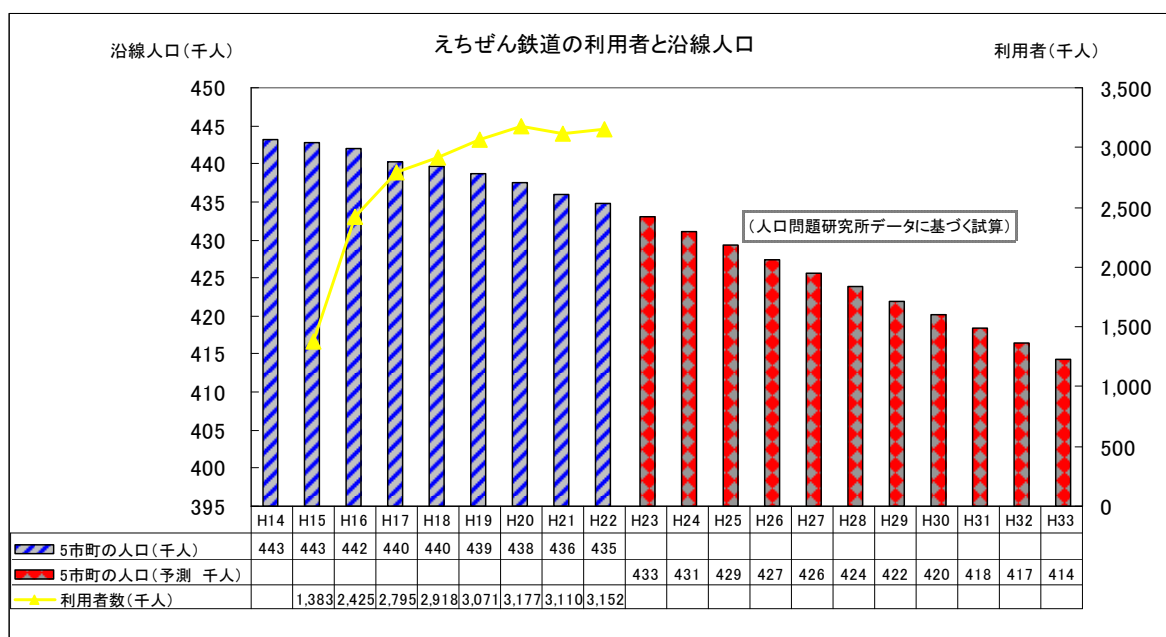


図16: 人口問題研究所データに基づく試算

- ▶ 5市町では少子高齢化の進行に伴い人口減少が進み、平成22年度の43万4千人余から、平成33年度には41万4千人余となる。(人口問題研究所データに基づく試算)
- ▶ 開業以来、えちぜん鉄道の利用者は、沿線人口の減少にもかかわらず、増加傾向を続けてきた。これは、ダイヤや運賃の改善を始めとする えちぜん鉄道の営業努力に加えて、設備や施設の改善、利用促進など行政と地域が一体となった取組みの成果と評価される。